

島原脳卒中地域連携施設研修会に参加された方々の、 学びとされた文章を一部掲載致します。

参加された方々は、研修の申し込み時に、「**研修に参加するにあたって、質問したい事、気になる事、学びたい事**」などを申し込み表に記入して頂き、研修修了時に「**研修を終えて、研修前の気になる事や学びたい事が解決しましたか？**」という問いかけに、再度記入して頂いております。その中の一部を掲載しました。

下記は、一人一人の文章です。

1. 脳卒中患者のスムーズな移行を早急に行うためには、状態を把握し、密に話し合いを行う必要がある。その為にも、各施設の状況を把握することも重要である。急性期・回復期共に早期離床が重要であり、その為にも各部署の連携が必須である事がわかった。
2. 急性期病院で早期離床を目指し、また次の回復期に向けて、各部署のスタッフ(PT・ST・栄養士・看護師)が一丸となって密な連携がされている事が良く理解できた。朝のカンファレンス、又食堂での介助の際や連携室との関係など良く理解できた。安全な環境の提供の為に、感染の予防管理の徹底や、器具等参考になった。食事援助の大切さも学べた。
3. 急性期での退院に向けての取り組み、退院支援について知る事が出来ました。地域連携室としての役割について学ぶ事が出来ました。
4. 急性期・回復期・維持期の流れや役割が分かりました。脳卒中地域連携パスの役割・意義が理解できました。
5. 急性期の段階からの早期離床・早期リハビリの取り組みにはとても感動しました。当院回復期へ転院後の対応にも考えさせられるところも多々ありました。受け入れた後、次の段階への連携など参考にしていきたいと思えます。

6. 退院に向け、院内他部門との連携と情報の収集や課題分析が必要であると考えます。
退院に向けて、患者さんが安心して退院できるように支援をしていく必要があると学びました。
7. 回復期リハビリテーション病棟看護師としての役割について、学びを深める事が出来ました。自分が勤めている病院では、ソーシャルワーカーがいないので、患者さんとその家族との話し合いを看護師が率先して行っていかなければならないので、介護保険や施設・グループホームなどの維持期の施設についても、勉強しなければならないと思いました。患者さんにとって、個々にあった退院支援を行う事が重要だとわかりましたので、本日の研修会の学びを、今後の仕事に活かしていきたいです。
8. 急性期病院で、早期から食事は食堂で行い、リハビリも入院当日より行われているのを見て、今までの概念が大きく変わりました。それを実際に目にする事が出来て、非常に勉強になりました。又、回復期病院では入院中の経過だけでなく、次のステップを常に考えた上で退院支援を行い、日常生活援助(入院生活)を行っている現場を目の当たりにして勉強になりました。連携の大切さを痛感しました。
9. 病棟看護師と、PT・ST、連携室・・・全ての職種が脳卒中の患者様の情報を共有しており、リハビリスタッフが病棟の毎朝のミーティングに出席するなど、情報伝達に遅れがないようにしているところが、早期に回復期病院と情報を取る為に必要なのだなと感じました。

以上が参加された中の一部の皆様の感想です。**異口同音に「急性期・回復期・維持期の取り組みに感動した。」とか「自分の施設に生かしたい」とか「連携が大事だ。」**と学ばれたようです。ここでも、地域のスタッフが、**「自宅復帰・社会復帰をめざす脳卒中の患者さんの全体像を見る機会が少なく、このような研修を渴望している」と**言えます。今後も、脳卒中の患者さんを中心として、患者さんに関わるスタッフのレベルアップの為の方策を検討していきたいと思います。